

## 平成19年度末木曾馬調査 報告

木曾馬保存会事務局

平成20年3月現在の飼育頭数（飼育者と連絡が取れ、生存の確認できる馬）は150頭で、内訳は開田地区内46頭（1頭減）、木曾郡内（開田地区を除く）13頭（1頭増）、長野県内（木曾郡を除く）21頭（1頭減）、岐阜県36頭（2頭減）、その他34頭（5頭増）である。飼育戸数は67軒で飼育頭数、飼育戸数共に昨年よりもわずかではあるが増加している。このほかにも飼育しているが、連絡が取れない等の事由によりカウントしていない馬もいる。

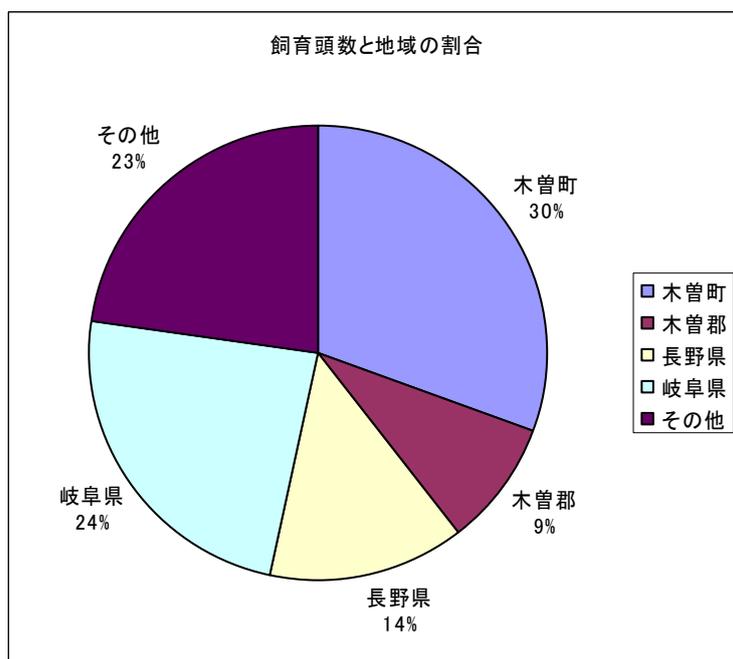
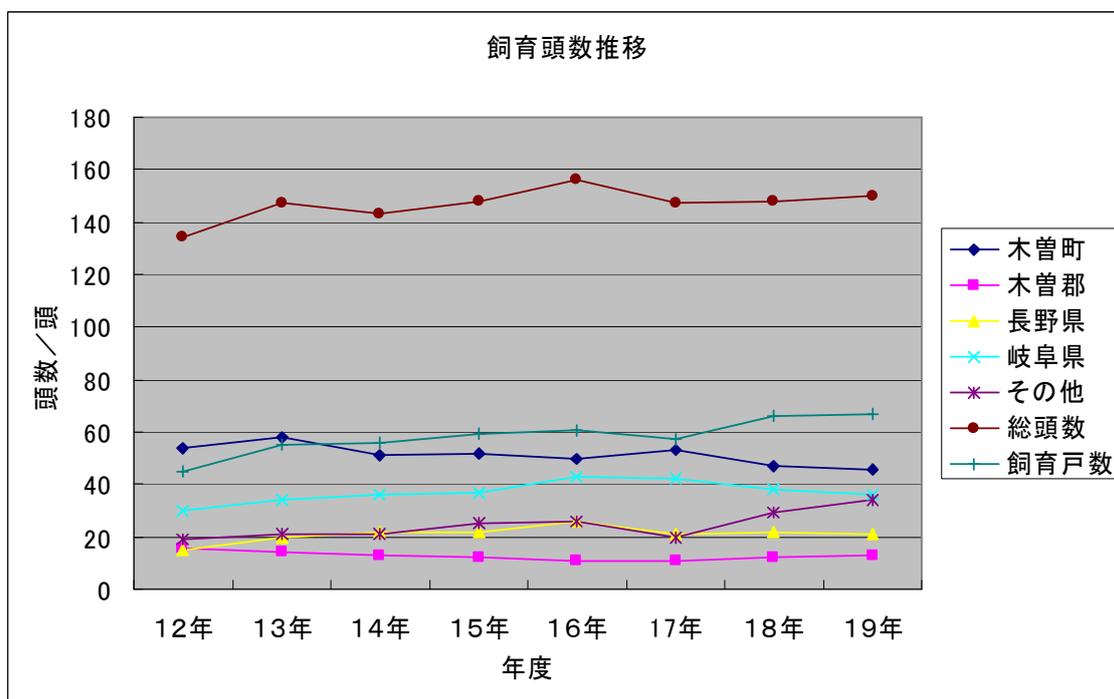
登録では19年度は7頭（4頭減）の血統登録を行った。

19年度の種付け状況及び20年度の出産予定状況に関して、19年度は種付け数が18年度よりも増加し、「幸葵号」5頭（1頭減）、「豊桜号」7頭（4頭増）、「鈴風号」7頭（4頭増）、「栄宝号」3頭（1頭減）、「清山号」0頭（増減無）、「風恋号」1頭の計23頭である。昨年7月に保存会所有種雄馬の幸葵号が死亡し、後継種雄馬の選定が必要とされる（候補馬は成馬で1頭いるほかに、20年度産駒で2頭系統の良い雌馬がいるので雄が生まれればそれを候補にしたいと考える）。岐阜県郡上しで繁殖登録を行った木曾系種雄馬「群司号」も20年度から本格的に供用開始でこちらにも期待がかかる。平成20年度の出産予定数は約20頭で前年よりも増加。木曾馬の需要が伸びてきているので各農家での繁殖にも力を入れていただきたいところである。

19年度産駒の売買状況は保存会員以外への売却が多くあり、特に公共施設への販売が多かった。保存利活用という面で特にコマースストックとしての役割のほか将来的な繁殖を考えているところも多く今後に期待をする。仔馬の値段は需要増傾向の中で少し上向き傾向と考えられ、それに伴いその分の馴致をしっかりとすることによりお互いに利益を得れるように生産者側にも努力は必要と考える。今後の課題としてはやはり生産者への馴致・護蹄・調教法の指導等（場合により当歳～1歳馬を乗馬施設に預けての馴致等）が木曾馬の価格向上につながると考えられ、高く売る為には高齢生産者も努力しないといけなくなっている。平成20年度は総会の折に装蹄師会から講師を招き護蹄についての講習会を開く予定にしているので、ぜひ参加して良馬の生産育成に励んでいただきたい。

### 飼育頭数

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
木曾町	54	58	51	52	50	53	47	46
木曾郡	16	14	13	12	11	11	12	13
長野県	15	20	22	22	26	21	22	21
岐阜県	30	34	36	37	43	42	38	36
その他	19	21	21	25	26	20	29	34
総頭数	134	147	143	148	156	147	148	150
飼育戸数	45	55	56	59	61	57	66	67



飼育頭数の割合の変化  
 木曾町 (旧開田) 31% > 30%  
 木曾郡 8% > 9%  
 長野県 14% > 14%  
 岐阜県 26% > 24%  
 その他 20% > 23%  
 木曾郡内の数字は仔馬が残っている為。